



「ふるさとの香り」

(財) 地方公務員等ライフプラン協会 岡山 三治

生

まれ育った故郷を離れて40年を超す歳月が流れました。

長いサラリーマン生活では八ヶ所の勤務地を経験し、多くの町で家族と一緒に生活できたこと、地元の方々との接点を幅広く持てたことを有り難く感謝しています。

しかしどの地に暮らしていても、秋になり金木犀が咲きあの甘酸っぱい香りを放つ頃になると思い出すのは、いつも故郷の秋祭りです。

故郷・愛媛県佐田岬の我が町の秋祭りの練り出し物は、牛鬼、五つ鹿踊り、唐獅子舞 等が中心になっており、宇和島伊達藩の影響を感じることができます。

秋祭りでは高校一年生の時、私は五つ鹿踊りのメンバーに入れていただき地元青年団の熱い指導を、夏の終わり頃から約1ヶ月間、毎晩に亘り受けました。自分達で唄い、自分達で叩く太鼓に合わせて自ら踊るという3つの事を同時にこなさなければならないので結構難しく、その上に5人の同級生メンバー全員の唄と音と動きを揃える難しさが加わるので、最初は全員が半べそをかきながら練習したことを思い出します。それでも地元青年団の方の「おい、何やとるか!」という熱い檄、ときには「よし!上手いぞ」という優しい指導で5人全員がだんだんものになって行き、晴れの本番を迎え、練り会場の沢山の地元お客様の前で無事踊り終えました。

当事者として参加した祭りの後の、地元青年団あげでの慰労打ち上げ会は本当に楽しく、地元の方々との繋がりを強く感じ、そして日頃は話すことの少ない方達との会話に嬉しくなってしまったことを思い出します。全員の明るい声や顔、自分や親の安堵感、季節にも恵まれ清々しい思い出となりました。

毎年、金木犀の香る季節になると我が家では、私の故郷・祭り自慢の始まりとなります。そして家族の野次にも似たひんしゅくが飛び交います。しかし、私は意にも介さず動じません。誰がなんと云おうと私にはそれはそれは自慢の故郷の祭りだからです。

故郷は4年前に3町が合併し、新しい町としてスタートしていますが人口の減少、若者の減少は他の地方と共通の悩みでしょう。しかし、各々の町が長年に亘り伝承保有してきた伝統文化、伝統技術等は何としても受け継ぎ守って行ってもらいたいと思います。「若者がいないから伝統文化が受け継がれない」というのではなく「若者が文化に触れることで郷土への愛着を持って暮らせる」ようになってもらえたらと思います。

故郷から何年、何十年離れていても、誇りと愛着を愚直に持ち続けている人もいるのだから……



「五つ鹿踊り」写真提供・伊方町 町見郷土館